

子どもの日

5月5日は子どもの日。日本の五節句のひとつです。奈良時代に中国から伝わった厄除けの儀式が、江戸時代に、男の子の健康を祈るお祝いへと変わりました。鯉のぼりや、鎧・兜などの五月人形を飾り、柏餅や粽を食べます。また、太陰暦では病気の多いシーズンだったため、病



にならないために「菖蒲湯」に入りました。日本では、1947年7月、「子どもの人格を重んじ、子どもの人格をはかるとともに、母に感謝する国民の祝日」として制定されました。国連では、11月20日を「世界子どもの日」としていますが、日付は各国政府が自由に決めています。説明を聞いた後、皆で柏餅を食べ、童謡「鯉のぼり」を歌いました。(5月1日)



歌舞伎鑑賞教室

7月3日には、国立劇場の歌舞伎鑑賞教室に出かけました。演目は歌舞伎十八番の内の「毛抜き」。芝居の前は、歌舞伎のみかたについての解説。男の役者がどのようにして女形に変わるのか、実際に化粧、着付、髪をつけ、なで肩や内股など身体まで変化させ、わかりやすい説明がありました。舞台は鮮やかな色彩や様々な効果音で独特の雰囲気があり、主人公が毛抜きを使うと、そ



れが空中を上下する様子に、客席から笑いが起きました。参加者は、午前の部が9名(学習者2名)、午後の部が14名(学習者10名)。「言葉が難しくわからなかったけれど結構面白かった」ようです。

